

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要	
1. ①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）	2
2. ②新設組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	
3. ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	3
4. ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	3
5. ③新設組織の主な学生募集地域	5
6. ④既設組織の定員充足の状況	6
(3) 学生確保の見通し	
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
7. ア 既設組織における取組とその目標	8
8. イ 新設組織における取組とその目標	9
9. ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	10
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	
10. ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	11
11. イ 競合校の入学志願動向等	16
12. ウ 学生納付金等の金額設定の理由	17
13. ③学生確保に関するアンケート調査	18
14. ④人材需要に関するアンケート調査等	20
15. (4) 新設組織の定員設定の理由	22

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員 (人)	編入学定員 (人)	収容定員 (人)	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
甲南大学理工学部 物質化学科	45	—	180	兵庫県神戸市東灘区 岡本8丁目9番1号

②新設組織の特色

理工学部（以下「本学部」という。）は、学園創設者である平生夙三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざす。

物質化学科（以下「本学科」という。）は、学部の教育基本方針に則った化学・応用化学の学問的土台を強固にする基礎力重視の教育を通じて、分子・化合物から材料に至る物質化学に関する基礎知識と基礎実験技術の両者を高い水準で併せもち、特定分野に偏らず理工学分野で幅広く活躍できる化学系人材の育成をめざす。

本学の学びの特徴である「彩り教育」、学部横断的に幅広い教養や知識を学ぶことができる「全学共通教育」などを通して、さまざまな分野の人材と協力して課題発見解決を行う素養を持った人材の育成をめざす。また、専門分野の教育研究においては、多様なバックグラウンドを持ち、先端の研究分野をカバーする教員により、基礎と応用の両方を身につけられる教育研究環境の下で、物質化学の基盤から分子・物質のデザイン及び機能探索・評価、次世代新素材創成などの先端科学技術までを身につけ、化学が関わるあらゆる理工学系分野で活躍できる人材の育成をめざす。

本学科と近接する学問分野を持つ既設組織としては、機能分子化学科（入学定員 60 人、収容定員 240 人）ならびに物理学科（入学定員 50 人、収容定員 200 人）があるが、これらの組織は令和 7(2025)年度入学生の受け入れをもって学生募集の停止を行い、在学生卒業後に廃止する。令和 8(2026)年度より本学科に加えて、環境・エネルギー工学科（入学定員 40 人、収容定員 160 人）ならびに宇宙理学・量子物理工学科（入学定員 45 人、収容定員 180 人）を設置する予定である。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

我が国の科学技術を取り巻く現状は年々深刻さを増している。令和4(2022)年度版「科学技術・イノベーション白書」(文部科学省)においては、我が国の研究力の低下が定量データに基づいて示されている。このような現状から脱却し、国際社会のなかで次世代科学技術・イノベーション創出を我が国が牽引するためには、自然科学・科学技術に関する確かな基礎力を持ち、それらを的確に応用し、実用化につなげる能力をもつ「科学技術イノベーションを担う次世代人材の育成」が急務であり、本学を含め、理系学部・学科を擁する大学はその使命を負っていると言える。

本学科の専門教育分野である化学・応用化学分野は、我が国の科学技術において非常に重要性が高い。「2023年 経済構造実態調査」(二次集計結果<製造業事業所調査>、経済産業省)によれば、我が国の産業中分類別製造品出荷額において、化学工業は34.3兆円(出荷額の構成比9.5%)であり、化学・応用化学分野が大きく寄与するプラスチック製品製造業(13.0兆円、同3.7%)及びゴム製品製造業(3.4兆円、同1.0%)を合わせた“広義の化学工業”の合計出荷額は48.1兆円(同14.6%)である。この出荷額は、輸送用機械器具製造業(70.5兆円、同19.5%)に次ぐ第2位であり、我が国の産業構造における化学関連産業の寄与は非常に高い。したがって、化学・応用化学系分野の社会的需要ならびに同分野の人材需要は高いと言える。

また、本学在籍生の出身都道府県上位3位の兵庫県、大阪府、岡山県(下記(2)③参照)において、化学工業は主要産業のひとつとして位置づけられる。上述の経済構造実態調査によれば、都道府県別の製造品出荷額の構成比において、化学工業は兵庫県で第2位(県内の出荷額構成比12.7%)、大阪府で第3位(同10.1%)、岡山県で第2位(同16.7%)である。したがって、本学の主な学生募集地域となる兵庫県、大阪府及びその近隣地域では化学工業が盛んであり、ゆえに本学科の専門教育分野である化学・応用化学系人材の需要が全国的に見ても高い地域と言える。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学科を設置する令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの18歳人口及び大学進学者数について、全国及び近畿地方の動向を予測した。リクルート進学総研が令和7(2025)年2月に公表した「マーケットレポート2024」【資料1】によると、全国の18歳人口は、令和8(2026)年度においては1,092,664人であるが、令和17(2035)年度には970,564人となり、おおよそ12万人減少する(令和8(2026)年度比88.8%)。また近畿地方としては、令和8(2026)年度においては179,292人であるが、令和17(2035)年度には158,390人となり、約2.1万人減少(令和8(2026)年度比88.3%)することとなり、減少率は全国とほぼ同じである。

一方、令和4(2022)年度から令和6(2024)年度における入学者の出身高校所在地都道府県の上位5位を【表1】に示す。兵庫県出身者が全体の67.6%を占め、次いで大阪府出身者が

16.5%となり、兵庫県と大阪府を合わせると全体の 84.1%を占めている。

【表 1】 本学の出身高校所在地県別の入学者数（上位 5 位、各年度 5 月 1 日時点）

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	平均値
都道府県	兵庫県	兵庫県	兵庫県	兵庫県
学生数(人)	1,575	1,499	1,452	1,509
(構成比%)	(67.8)	(66.4)	(68.6)	(67.6)
都道府県	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府
学生数(人)	374	384	346	368
(構成比%)	(16.1)	(17.0)	(16.4)	(16.5)
都道府県	岡山県	岡山県	岡山県	岡山県
学生数(人)	60	54	46	53
(構成比%)	(2.6)	(2.4)	(2.2)	(2.4)
都道府県	香川県	香川県	香川県	香川県
学生数(人)	34	34	39	36
(構成比%)	(1.5)	(1.5)	(1.8)	(1.6)
都道府県	広島県	広島県	広島県	広島県
学生数(人)	33	35	29	32
(構成比%)	(1.4)	(1.6)	(1.4)	(1.4)
全体(人)	2,323	2,256	2,116	2,232
(構成比%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

そこで、「マーケットリポート 2024」近畿版【資料 2】において兵庫県及び大阪府の 18 歳人口の推移をみると、兵庫県では令和 8(2026)年度は 48,416 人であるが、令和 17(2035)年度には 43,722 人に減少し（令和 8(2026)年度比 90.3%）、大阪府では令和 8(2026)年度は 74,579 人から、令和 17(2035)年度には 66,661 人に減少する（令和 8(2026)年度比 89.4%）。このように兵庫県ならびに大阪府の 18 歳の減少率は、全国平均と比較して、1～2%程度減少が緩やかである。

また、同マーケットリポート【資料 1】によれば、18 歳人口が減少し続けるなかでも大学進学率は当分の間上昇することが予測されており、令和 6(2024)年度の近畿エリアの現役大学進学率は 64.7%と全国平均 58.4%を大きく上回っている。さらに詳しく、同マーケットリポート近畿版【資料 2】によれば、本学の入学者が特に多い兵庫県と大阪府では、令和 6(2024)年度の現役大学進学率がそれぞれ 65.6%と 65.3%であり、近畿エリア平均よりさらに高く、年次推移も上昇傾向にある。つまり、本学の主な学生募集地域は全国的・地域的に見ても進学率が高く上昇傾向にあることから、学生確保の観点で中長期的な 18 歳人口の減少の影響を受けにくい地域であり、後述の入学意向調査結果及び既設学科である機能分子

化学科の入学定員を 15 人（25%）減じることを勘案すれば、本学科の中長期に渡る学生確保は、十分可能であると考えられる。

③新設組織の主な学生募集地域

本学科は兵庫県神戸市に位置しており、「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」【資料 3（別紙 1）】の出身高校の所在地都道府県別によれば、兵庫県内の大学への入学者数の構成比は兵庫県 47.6%、大阪府 17.4%と県内全体のおよそ 2/3 を占めている。また、これらの 2 府県に続き、近隣府県である京都府（2.6%）、岡山県（2.2%）、広島県（2.0%）などから数%の入学者数がある。したがって、兵庫県内の大学への主な学生募集地域は、兵庫県・大阪府を中心として広く近畿・中四国地域にわたっている。

一方で、(2) ②の【表 1】に示したとおり、本学の令和 4(2022)年度から令和 6(2024)年度における入学生の出身校所在地は、兵庫県内からの入学者が全体の 70%弱、次いで大阪府が 20%弱、岡山県が 2~3%程度、香川県及び広島県が 1~2%程度であり、全体のおよそ 90%弱を占めている。兵庫県内の大学全体への入学状況と比較して、本学は兵庫県内からの入学者が非常に多く、地元志向が強い点が特徴的である。したがって、本学は、兵庫県内の他大学よりも県内からの学生募集が最重要であり、次いで大阪府、そして近畿・中国・四国地方を含めた近隣県に学生募集地域があると判断できる。

兵庫県に所在する大学の定員充足率は、【資料 3（別紙 1）】のとおり、令和 4(2022)年度～令和 6(2024)年度の 3 年間で 95%程度(93.81~96.57%)と 100%からやや下回っている。その一方で、本学科が属する学問分野（系統区分）である理・工学系（大学）の定員充足状況は、過去 3 年間でほぼ 100%以上（99.39~104.35%）であり、ニーズの高い学問分野であると言える。

さらに詳しく、本学科が該当する学科系統分類表の中分類「化学」及び「応用化学」関係学科に対する令和 4(2022)年度～令和 6(2024)年度の 3 年間における志願者数の推移を【表 2】にまとめた。大学志願者数の合計は過去 3 年間漸減しているが、「化学」及び「応用化学」関係学科への志願者数はほぼ横ばいであり、化学系学科に対して根強い人気があるものと推測される。

以上の点を考慮すると、本学科の属する「化学」及び「応用化学」関係学科は、昨今の全国的な志願者減のなかで、他分野の学科と比較して根強い人気とニーズがあり、かつ、兵庫県内の理・工学系分野の定員充足状況も良好なことから、学生確保に十分な入学状況にあると判断できる。

【表 2】 過去 3 年間の化学及び応用化学関係学科への志願者数及び推移

		合計	化学	応用化学	化学+応用化学
令和 6 年度	志願者数(人) (増減) ^{※1}	4,228,614 (-7,821)	23,585 (+85)	62,456 (-1,062)	86,041 (-977)

令和 5 年度	志願者数(人) (増減) ^{※1}	4,236,435 (-115,530)	23,500 (-1,175)	63,518 (+1,652)	87,018 (+477)
令和 4 年度	志願者数(人) (増減) ^{※1}	4,351,965 (-28,462)	24,675 (+1,431)	61,866 (+3,374)	86,541 (+4,805)

出典：「学校基本調査」に基づき作成

※1：前年度からの増減数

④既設組織の定員充足の状況

本学は、文学部（5 学科）、理工学部（3 学科）、経済学部（1 学科）、法学部（1 学科）、経営学部（1 学科）、知能情報学部（1 学科）、マネジメント創造学部（1 学科）、フロンティアサイエンス学部（1 学科）、グローバル教養学環の 8 学部 1 学環で構成されている。

既設学部・学環における直近 5 年間の入学定員の充足状況【資料 4（別紙 2）】は、令和 6(2024)年度に新設されたグローバル教養学環を除いて、いずれの学部においても入学定員は充足できている。また、令和 6(2024)年 5 月 1 日時点の既設学部・学環における令和 6(2024)年度の収容定員充足状況【表 3】は、文学部 115.2%、理工学部 114.8%、経済学部 114.3%、法学部 115.4%、経営学部 117.7%、知能情報学部 117.1%、マネジメント創造学部 110.6%、フロンティアサイエンス学部 110.6%、グローバル教養学環 96.0%である。令和 6(2024)年度に新設されたグローバル教養学環を除いて、いずれの学部においても収容定員は充足できている。さらに、志願倍率においても、学部・学環によって多少のばらつきは見られるものの、平均として 10 倍を超えており、質の高い教育を維持していくために適切な学生確保が可能な状況である【表 4】。

以上のとおり、既設組織における今後の定員については問題なく充足する見通しである。なお、本学科の新設に併せて、既設学部である経済学部の入学定員を現在の 340 人から 330 人に、また、経営学部の入学定員を現在の 340 人から 330 人に減じる。さらに、理工学部物理学科（入学定員 50 人）ならびに機能分子化学科（入学定員 60 人）を廃止し、環境・エネルギー工学科（入学定員 40 人）及び宇宙理学・量子理工学科（入学定員 45 人）を設置する。

【表 3】既設学科における収容定員充足状況（令和 6(2024)年 5 月 1 日時点）

学部	学科	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	収容定員 充足率 (%)
文学部	日本語日本文学科	280	325	116.1
	英語英米文学科	360	403	111.9
	社会学科	360	423	117.5
	人間科学科	380	436	114.7

	歴史文化学科	240	279	116.3
理工学部	物理学科	200	245	122.5
	生物学科	180	217	120.6
	機能分子化学科	240	250	104.2
経済学部	経済学科	1,380	1,577	114.3
法学部	法学科	1,320 (1,365) ^{※1}	1,575	115.4
経営学部	経営学科	1,380	1,624	117.7
知能情報学部	知能情報学科	480	562	117.1
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	680 (710) ^{※2}	785	110.6
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	180	199	110.6
グローバル教養学環	—	100 (25) ^{※3}	24	96.0

※1：収容定員のうち 60 人を令和 6(2024)年度に設置した学部等連携課程実施基本組織であるグローバル教養学環側で集計、括弧内は学年進行を考慮した収容定員（収容定員充足率の母数）

※2：収容定員のうち 40 人を令和 6(2024)年度に設置した学部等連携課程実施基本組織であるグローバル教養学環側で集計、括弧内は学年進行を考慮した収容定員（収容定員充足率の母数）

※3：令和 6(2024)年度時点で 1 期生のみ在籍のため、括弧内は 1 学年のみの収容定員（収容定員充足率の母数）

【表 4】 既設学科における志願状況（令和 4(2022)年度～令和 6(2024)年度入学者選抜）

学部	学科	志願者数（人） ^{※1}			志願倍率（倍） ^{※2}		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
文学部	日本語日本文学科	660	763	1,014	9.4	10.9	14.5
	英語英米文学科	629	830	1,279	7.0	9.2	14.2
	社会学科	889	1,097	1,432	9.9	12.2	15.9
	人間科学科	1,013	1,183	1,747	10.7	12.5	18.4
	歴史文化学科	931	770	961	15.5	12.8	16.0
理工学部	物理学科	646	531	878	12.9	10.6	17.6
	生物学科	559	811	891	12.4	18.0	19.8
	機能分子化学科	609	627	667	10.2	10.5	11.1
経済学部	経済学科	2,521	3,185	3,572	7.3	9.2	10.4

法学部	法学科	2,636	2,789	3,394	7.6	8.1	10.3
経営学部	経営学科	3,103	3,325	4,193	9.0	9.6	12.2
知能情報学部	知能情報学科	1,215	1,608	1,487	10.1	13.4	12.4
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	1,103	2,040	1,528	6.1	11.3	9.0
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	404	556	641	9.0	12.4	14.2
グローバル教養学環		—	—	170	—	—	6.8

※1：すべての入学者選抜の延べ志願者数合計

※2：志願者数（人）を入学定員（人）で除した倍率

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

既設の理工学部3学科（物理学科、機能分子化学科、生物学科）における学生確保の取組として、「オープンキャンパス」、「資料請求者への大学案内・学部パンフレット等の発送」、「高校訪問ガイダンス」等を実施している。オープンキャンパスでは、学部説明会、模擬講義、体験型プログラム、キャンパス見学、教職員学生による個別相談を行っており、大学案内・学部パンフレットには、大学や学部の学び・特色、研究紹介等を掲載し、本学部を希望する受験生に対して送付している。また、高校訪問ガイダンスでは、要望のあった高等学校に赴いて、大学の魅力や学べる分野の魅力を紹介するとともに、入試に関する説明を行っている。

これらPR活動の実績と、それを踏まえた分析結果は以下のとおりである。なお、各取組とも受験率及び入学率に年度間で大きな差がなく安定していることから、入学者数は受験対象者の本学部プログラム参加者数に概ね比例すると予想される。

【オープンキャンパス】

令和4(2022)年度は春期、夏期及び秋期に実施し、【資料5(別紙3)】のとおり合計1,235人が本学部のプログラムに参加を希望した。参加者のうちの717人が令和5(2023)年度の受験対象者であり、そのうちの269人が本学部を受験し、52人が入学した。したがって、受験率37.5%、入学率7.3%である。令和5(2023)年度においても、春期、夏期及び秋期に実施し、1,683人が本学部のプログラムに参加、そのうちの977人が令和5(2023)年度受験対象者、さらにそのうちの366人が理工学部を受験し、70人が入学した。(受験率37.5%、入学率7.2%)。

【資料請求者への大学案内・学部パンフレット等の発送】

資料請求者に発送した配付数(参加者等総数)は、令和4(2022)年度が5,877人であり、

令和 5(2023)年度の受験対象者は 2,880 人である。そのうち 113 人が本学部を受験し、22 人が入学した（受験率 3.9%、入学率 0.8%）。令和 5(2023)年度は、配布数（参加者総数）5,063 人に対して令和 6(2024)年度受験対象者が 2,481 人であり、そのうち 97 人が本学部を受験し、19 人が入学した（受験率 3.9%、入学率 0.8%）。

【高校訪問ガイダンス】

高校訪問ガイダンスの令和 4(2022)年度の実績は、参加者総数が 962 人、令和 5(2023)年度の受験対象者は 510 人、そのうちの 159 人が本学部を受験、入学者は 31 人であった（受験率 31.2%、入学率 6.1%）。令和 5(2023)年度については、980 人の参加者のうち令和 6(2024)年度の受験対象者が 531 人、そのうちの 165 人が本学部を受験し、32 人が入学した（受験率 31.1%、入学率 6.0%）。

イ 新設組織における取組とその目標

本学では、次世代の科学技術を牽引し、社会課題の解決に貢献する理系人材を育成するため、理系学部全体を進化させる取組である「進化型理系構想」を令和 6(2024)年度に立ち上げた。本学科の新設を含む理系 3 学部 6 学科の組織改編はその取組の一つである。この進化型理系構想に関して以下の PR 活動を実施した。

- ・チラシ発行（令和 6(2024)年 4 月 9 日）
- ・産経新聞（教育面）記事掲載（令和 6(2024)年 5 月 30 日）
- ・日経 HR 「日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 就職力ランキング 2024-2025」内の特別企画「次世代を創る大学」掲載（令和 6(2024)年 6 月 3 日）
- ・神戸新聞 「兵庫の大学へ行こう 2025」掲載（令和 6(2024)年 6 月 7 日）
- ・大学ホームページに特設サイトを開設（令和 6(2024)年 6 月 11 日）
- ・大学通信社「ユニヴプレス」6 月号掲載（令和 6(2024)年 6 月 28 日）
- ・関西湾岸 SDGs チャレンジ広告掲載（令和 6(2024)年 6 月 30 日）
- ・神戸新聞「LEADERS 倶楽部通信」記事掲載（令和 6(2024)年 7 月 11 日）
- ・大学 SELECTION(セレクション)（読売新聞/マネジメントブック（進研アド））記事掲載・動画公開（令和 6(2024)年 7 月 13 日）
- ・シンポジウム開催（令和 7(2025)年 3 月 8 日）
- ・コンセプト動画制作（令和 7(2025)年 4 月 1 日公開）
- ・リーフレット発行（令和 7(2025)年 4 月配布）

これに加えて、(3) ①アで既述のとおり、本学部においてそれぞれの取組による成果が出ていることから、既設学科と同様に主にオープンキャンパス、資料請求者への大学案内等の発送及び高校訪問ガイダンス等を中心に取り組む方針であり、本学部全体の定員が 155 人

から 175 人に 20 人増加することを鑑み、それぞれの取組における目標値を次のとおり定める。

【オープンキャンパス】

オープンキャンパスについては、【資料 5 (別紙 3)】のとおり、過去 2 年間に本学部全体で 717 人及び 977 人の受験対象者が参加しており、平均で 847 人の参加となる。この実績に対し、定員増の割合を考慮した約 1.3 倍の受験対象者 1,100 人の獲得を目標とする。

これを達成するために、オープンキャンパスのプロモーションについては、資料請求や高校訪問ガイダンス、模擬講義などと連動した形で、チラシやリーフレット等を活用した告知を行うとともに、ホームページや SNS を活用したデジタルによる広報の増強、新規に行う交通広告や各種媒体での参加促進を図る。

また、各回のオープンキャンパスにて本学科の特設展示ブースの設置や受験生の認知度の高い講師を招いた講演会を開催するなどの新規企画を実施し、参加者に対して強く訴求することで口コミ等によるさらなる参加者獲得をめざす。

【資料請求者への大学案内・学部パンフレット等の発送】

資料請求者については、【資料 5 (別紙 3)】のとおり過去 2 年において資料請求のあった受験対象者数は 2,880 人及び 2,481 人であり、平均で 2,680 人となる。この実績に対し、定員増の割合を考慮した約 1.3 倍の受験対象者 3,480 人の獲得を目標とする。

例年の取組に追加して、各進学支援媒体への本学部広告を掲載することや志望学問分野及びエリアなどの選定を行い、戦略的にダイレクトメールを配信することを予定している。また、動画による PR を通じて特色や魅力をわかりやすく訴求し、資料請求者の獲得をめざす。

【高校訪問ガイダンス】

高校訪問ガイダンスについては、対象校からの受験対象者数が【資料 5 (別紙 3)】のとおり過去 2 年において本学部全体で 510 人及び 531 人であり、平均で 520 人となる。この実績に対し、定員増の割合を考慮した約 1.3 倍の受験対象者 680 人の獲得を目標とする。

この目標に合わせて対象校と訪問数を過去の実績を考慮しつつ増加を図るとともに、本学科のリーフレット及び特設サイトで魅力を伝えることにより、該当年度においても例年と同水準以上の受験者を集められることを想定している。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

本学部で同様の取組を実施した場合に見込まれる入学者数について、次のとおり推計している。

推計方法としては、それぞれの取組における受験率及び入学率を過去 2 年の平均値と仮

定して (3) ①イにおいて設定した目標値を乗算し、受験者数及び入学者数の見込みを算出したものが【表 5】である。

なお、【表 5】で示している 144 人の入学者は見込み数であり、先述のとおり取組間の重複がある延べ数であるが、(3) ①アで述べた定員に対する入学者数の割合の 2 箇年平均値は 72.9%であり、この割合が指標となる。また、(3) ①アの取組に参加せず、各自でホームページ等を参考に受験する入学者が一定数存在することもわかる。これらを考慮すると、本学部の定員 175 人に 72.9%を乗算した入学者数は 128 人となり、144 人の見込み入学者数はこの値を十分上回る。また、(3) ①アの取組に参加しない入学者が同程度存在することを加味すれば、入学者数を十分確保できる見込みである。

【表 5】実績の分析結果に基づく、本学科での受験者数及び入学者見込み数

	目標値 (人)	推定受験率 (%)	推定入学率 (%)	受験者数 ^{※1} (人)	入学者数 ^{※1} (人)
オープン キャンパス	1,100	37.5	7.2	413	79
資料請求	3,480	3.9	0.7	136	24
高校訪問 ガイダンス	680	31.1	6.0	211	41
合 計	5,260	14.4	2.7	760	144

※1：見込み数

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【競合校の選定理由】

本学科は、兵庫県神戸市に位置する私立大学の化学・応用化学分野の学科であり、機能分子化学科の後継学科として入学定員は 45 人となる。学力層の尺度として、機能分子化学科の偏差値を代用すると、一般選抜で偏差値 45.0 である（旺文社「大学受験パスナビ」サイトの情報に基づく）。学力層が類似する近隣大学の化学系学科について調査したが、本学科は入学定員が非常に少ない。このことは、本学科がきめ細やかな少人数教育を実践できることを示唆しており、圧倒的な優位性として挙げられる。

競合校としては、偏差値 40～50 程度の私立大学、所在地は主な学生募集地域である兵庫県と大阪府とする一方、入学定員規模 150 人以下まで範囲を広げて大学を選定した。その結果、【表 6】に示すように、関西学院大学理学部化学科、近畿大学理工学部理学科、及び大阪工業大学工学部応用化学科が候補となった。

【表 6】本学科及び選定した競合校（私立大学化学系学科）の概要

	大学・学部・学科名	所在地	入学定員 (人)	偏差値※1
本学科	甲南大学理工学部物質化学科	兵庫県神戸市	45	45.0※2
競合①	関西学院大学理学部化学科	兵庫県三田市	66	50.0
競合②	近畿大学理工学部理学科化学コース	大阪府東大阪市	85	47.5
競合③	大阪工業大学工学部応用化学科	大阪府旭区	130	42.5

※1：旺文社「大学受験パスナビ」サイトに基づく令和 6(2024)年度の主な一般選抜入学試験の偏差値

※2：機能分子化学科の偏差値

【競合校との比較分析】

本学科は、理工学部機能分子化学科の後継学科として位置づけられ、本学開学時から続く化学分野を主体とする学科である。本学科は、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に則り、純粋化学（物質理学）と応用化学（物質工学）の垣根を超えた総合的な物質化学教育を行う。

競合校をはじめとする化学・応用化学系学科は、【表 6】の学科名からも類推されるように、理学（化学科）と工学系（応用化学科）のいずれかに特化した学科が多い。また、生命化学や環境化学などの学際領域に特化する化学系学科も多く設置されている。本学科の魅力は、化学・応用化学の原点とも言える「“ものづくり”としての物質化学」の観点を大切に、基礎化学と応用化学をバランスよく教育し、特定の分野に偏らず、物質が関わるさまざまな疑問や課題に立ち向かえる確固たる基礎化学力を養い、さらにそれらを使いこなす柔軟な応用力・実践力を知識と技術の両面で一つ一つきちんと身につけることを教育方針に掲げている点にある。このような教育には教員が個々の学生に対してきめ細やかに学修支援する必要があり、規模の大きな（入学定員の多い）学科では難しい。その点において、化学系学科のなかでも入学定員が圧倒的に少ない本学科における少人数教育の優位性は極めて高いと判断している。

競合校との受験時期、入学手続時期との関係については、本学科では総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜（前期日程、中期日程、共通テスト利用、外部英語利用）により多様な受験方法と十分な受験日・入学手続期間を確保しており、競合校も概ね同様となるが、遜色のない受験機会を提供できている。また、一般選抜において合計 5 日の受験日を設けるとともに、各試験日程が競合校と重ならないよう配慮をしている。令和 8(2026)年度入試以降も同様に日程を調整する見込みであり、志願者にとって受験及び入学手続きがしやすいようになっている。

本学科及び競合校の学生納付金及び給付制奨学金制度を【表 7】にまとめた。本学科の学

生納付金は初年度 1,571,000 円、2 年目以降 1,570,000 円であり、4 年間で 6,281,000 円である。初年度の学生納付金が他の競合校に比べて最低額であることは本学科の特筆すべき点であり、大学受験・入学期における受験料・入学金納付など一時的に増加する経済的負担を軽減する本学の配慮である。しかしその分、2 年次以降の授業料が高額となるため、2 年次以上を対象とし、採用後には卒業まで給付される多様な奨学金制度を設け、充実した修学支援を実施している点で優位性がある。なお、これらの経済的な学修支援がなくても、4 年間の学生納付金は、他の競合校と同額程度以下になっており、入学定員が少ない本学科できめ細やかな少人数教育を受ける学費の設定としては、非常に優位性が高いと言える。

【表 7】 本学科及び競合校の学生納付金及び給付制奨学金制度

大学・学部・学科 学生納付金 ^{*1}	給付制奨学金制度
甲南大学 理工学部物質化学科 初年度:1,571,000 円 4 年間:6,281,000 円 ※1	1. 甲南学園奨学金 (2 年次以上) 25,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 2. 中川路奨学金 (2 年次以上) 25,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 3. 甲南大学瀧川奨学金 (2 年次以上) 30,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 4. 甲南大学平友奨学金 (2 年次以上) 20,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 5. 甲南大学旧制甲南高等学校奨学金 (3 年次以上) 20,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 6. 甲南大学八木慎二“わがみちをすすめ”奨学金 (2 年次以上) 45,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 7. 甲南大学父母の会奨学金 (2 年次以上) 40,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 8. 甲南大学同窓会奨学金 (2 年次以上) 20,000 円/月 (採用年度初～最短卒業年限) 9. 甲南大学“わがくるま星につなぐ”甲南の星奨学金 (入学前予約採用型) 420,000 円/年 (理系、入学後 4 年間)
関西学院大学 理学部化学科 初年度:1,727,000 円 4 年間:6,908,000 円	1. 関西学院大学支給奨学金 自宅通学:250,000 円/年、自宅外通学:350,000 円/年 (1 年間) 2. ランバス支給奨学金 自宅通学:250,000 円/年、自宅外通学:350,000 円/年 (4 年間) (近畿圏外からの進学者には、初年度のみ 200,000 円を増額支給)

<p>※2</p>	<p>3. マルチプル・ディグリー(MD)制度による編入学生支援奨学金 編入前年度の適格認定(家計)の認定支援区分相当額・期間(日本 学生支援機構給付奨学金・授業料等減免)</p> <p>4. 産学合同育英奨学金 250,000 円/年 (1 年間)</p> <p>5. 中谷記念奨学金 150,000 円/年 (1 年間)</p> <p>6. 奨励奨学金 250,000 円/年 (1 年間)</p> <p>7. クレセント奨学金 250,000 円/年 (1 年間)</p> <p>8. 同窓会奨学金 250,000 円/年 (1 年間)</p> <p>9. 利子補給奨学金 提携教育ローン利用者に対し 1 年間利子支払相当額 (1 年間)</p>
<p>大阪工業大学 工学部応用化学科</p> <p>初年度:1,640,000 円 4 年間:6,110,000 円</p> <p>※2</p>	<p>1. 特待生奨学金 年間授業料相当額 (原則 4 年間)</p> <p>2. 入試選抜奨学金 1 年間 (入学初年度) の授業料の半額相当額 (1 年間)</p> <p>3. 成績優秀奨学金・テラサキ奨学金 年間授業料の半額相当額 (1 年間)</p> <p>4. 学園校友会奨学基金奨学金 20,000~30,000 円/年 (1 年間)</p> <p>5. 特別奨学金 125,000 円/年 (1 年間)</p> <p>6. 副島奨学金 35,000 円/年 (1 年間)</p> <p>7. 柴山奨学金 310,000 円/年 (1 年間)</p> <p>8. 外国人留学生学内奨学金 20,000 円/月 (1 年間)</p> <p>9. 外国人留学生授業料減免制度 年間授業料の 20%相当額 (1 年間)</p>
<p>近畿大学 理工学部理学科 化学コース</p>	<p>1. 世耕弘一奨学金 (入学前予約採用型) 300,000 円/年 (1 年間)</p> <p>2. 世耕弘一奨学金 (給付)</p>

初年度:1,712,000 円 4 年間:6,278,000 円 ※2	300,000 円/年 (1 年間)
---	--------------------

出典：各大学のホームページを基に作成

※1：入学金及び学費の合計。実験・実習科目を履修する場合は、別途実験費・実習費が必要。

※2：入学金及び学費（授業料、教育充実費、実験実習費等）の合計

既設の理工学部機能分子化学科の就職状況について、令和 5(2023)年度卒業生実績として就職希望者に対する就職率（文部科学省定義）は 100.0%である。他の競合校の就職率については、各校の公開データに基づくと、関西学院大学理学部化学科 100.0%、大阪工業大学工学部応用化学科 99.0%、近畿大学理工学部理学科 93.4%（化学コース単独の公開情報がないため、学科全体の数値）である。したがって、他の競合校と比較してもまったく遜色ない、または優位な就職状況である。

本学科において、取得可能な資格（ただし、資格の取得条件あるいは受験資格等に学科の単位修得を必要としないものは除く）について【表 8】にまとめた。本学科は、化学系学科に特化した毒物劇物取扱責任者や甲種危険物取扱者の受験資格が得られるほか、教職免許・図書館司書の資格取得が可能であり、公認心理師資格に必要な必修科目の単位を修得することができるなど、他の競合校と同等以上に多様な資格を取得可能であり、一定の優位性があると言える。

【表 8】本学科及び競合校において取得可能な国家資格

大学・学部・学科	取得可能な資格
	A：学科教育課程を卒業することにより取得 B：学科教育課程以外の所定の単位を修得し卒業することにより取得 C：学科教育課程の所定の単位を修得することにより受験資格が得られる D：学科教育課程以外で資格取得に必要な必修科目の単位を修得
甲南大学 理工学部物質化学科	A 毒物劇物取扱責任者 B 中学校教諭一種免許状（理科） B 高等学校教諭一種免許状（理科） B 図書館司書 B 学校図書館司書教諭 C 甲種危険物取扱者 D 公認心理師
関西学院大学 理学部化学科	A 毒物劇物取扱責任者 B 中学校教諭一種免許状（理科） B 高等学校教諭一種免許状（理科）

	B 学校図書館司書教諭 B 学芸員 C 甲種危険物取扱者
大阪工業大学 工学部応用化学科	A 毒物劇物取扱責任者 B 高等学校教諭一種免許状（理科・工業） B 中学校教諭一種免許状（理科） C 甲種危険物取扱者
近畿大学 理工学部理学科 化学コース	A 毒物劇物取扱責任者 B 高等学校教諭一種免許状（理科・数学・情報） B 中学校教諭一種免許状（理科・数学） B 図書館司書 C 甲種危険物取扱者

出典：各大学ホームページ等により作成

立地に関して、本学科は神戸市東灘区にあり三宮駅から電車と徒歩で17分、大阪駅や梅田駅から電車と徒歩で30分である。また、最寄駅は阪急神戸線及びJR神戸線の主要2路線の駅であり、交通利便性が他の競合校よりも非常に高い。

イ 競合校の入学志願動向等

既設学科である理工学部機能分子化学科及び競合校の入学志願状況等の比較を【表9】にまとめた。いずれの学科においても、過去3年間の入学定員充足率は概ね100%を超え、かつ一般選抜の志願者数は合格者数を常に上回っている。したがって、他の競合校を含め、入学者選抜の制度は支障なく機能していると言える。

また、本学を含め他の競合校において入学定員を満たさなかった年度はあるものの、翌年度には十分に入学定員を充足しており、化学・応用化学系学科の学生確保に深刻な懸念がある状況ではまったくないと言える。なお、上述の(2)④で述べたように、本学科の入学定員は、既設の機能分子化学科60人から45人に変更する。この入学定員変更（定員減）により、本学科の志願倍率及び競争倍率は、機能分子化学科より上昇することが見込まれ、この観点からも学生確保は十分に可能であると判断できる。

【表9】既設学科及び競合校の過去3年間の入学志願状況等^{*1}

大学・学部・学科	年度	志願者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 充足率(%)
甲南大学 理工学部機能分子化学科	令和 6	501	211	65	108.3
	令和 5	490	243	58	96.7

(既設学科)	令和 4	515	314	68	113.3
関西学院大学 理学部化学科	令和 6	712	392	74	112.1
	令和 5	706	357	62	93.9
	令和 4	612	311	69	104.5
大阪工業大学 工学部応用化学科	令和 6	527	304	909 ^{※2}	101.0 ^{※2}
	令和 5	669	314	914 ^{※2}	101.6 ^{※2}
	令和 4	617	398	914 ^{※2}	101.6 ^{※2}
近畿大学 理工学部理学科 ^{※3}	令和 6	3,075	952	254	112.9
	令和 5	3,542	955	256 ^{※4}	113.8 ^{※4}
	令和 4	3,442	1,093	260 ^{※4}	115.6 ^{※4}

出典：各大学ホームページ及び旺文社「大学受験パスナビ」サイトを基に作成

※1：志願者数、合格者数は一般選抜（大学入学共通テスト利用を除く）における数値

※2：学科単独の公開情報がないため、工学部全体（入学定員 900 人）に対する数値

※3：コース単独の公開情報がないため、理学科全体（入学定員 225 人）に対する数値

※4：入学者数の公開情報がないため、令和 6(2024)年 5 月 1 日時点の在籍学生数を代用

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

本学科における学生納付金【表 10】は、私立大学として継続的な学校運営を行うにあたり必要な財務計画及び学費支弁者等への負担とならないよう十分に配慮し、既設の理工学部機能分子化学科と同額に設定した。競合校との比較は【表 11】のとおりで、6,110,000 円から 6,908,000 円であり、本学の 6,281,000 円はこの間に入る水準である。なお、本学科教育課程の 4 年間の履修において別途必要となる実験費・実習費については、個人差があるが、最大 140,000 円と想定され、これを加えても競合校の納付金額の幅の中に収まる。

以上のことから、本学科の学生納付金は妥当な金額設定であり、学生確保に支障を来すものではないと判断している。

【表 10】本学科の学生納付金（令和 8(2026)年度入学生・円）

大学学部学科名	初年度納付金 ^{※1}	4 年間納付金 ^{※1}
甲南大学 理工学部物質化学科	1,571,000	6,281,000

※1：入学金及び学費の合計（実験・実習科目を履修する場合は、別途実験費・実習費が必要）

【表 11】競合校の学生納付金（令和 6(2024)年度入学生・円）

大学学部学科名	初年度納付金 ^{※1}	4 年間納付金 ^{※1}
関西学院大学 理学部化学科	1,727,000	6,908,000

大阪工業大学 工学部応用化学科	1,640,000	6,110,000
近畿大学 理工学部理学科化学コース	1,712,000	6,278,000

出典：各大学ホームページより本学作成

※1：入学金及び学費の合計（教育充実費、実験実習費等を含む）

③学生確保に関するアンケート調査

本学科の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握するため、学生確保に関するアンケート調査「甲南大学理工学部「環境・エネルギー工学科」「宇宙理学・量子物理工学科」「物質化学科」（いずれも仮称、設置構想中）に関するアンケート」を行った【資料6】。

調査概要については、以下のとおりである。

	調査①	調査②
調査目的	令和 8(2026)年 4 月開設予定の甲南大学「理工学部 物質化学科」（仮称）の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。	
調査対象	入学実績のある近隣高校在籍者 （高校 2 年生）【資料 7】	オープンキャンパス参加者 （高校 2 年生）
調査エリア	北海道、茨城県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、鹿児島県	（オープンキャンパスなどにて参加者に直接配布）
調査方法	留め置き	オープンキャンパス等イベントにて配布・回収
調査対象数	依頼数：30,760 人（233 校） 有効回収数：13,749 人（180 校） 有効回収率：44.7%	有効回収数：260 人
調査時期	令和 6(2024)年 9 月 9 日（月）～ 令和 6(2024)年 11 月 5 日（火）	令和 6(2024)年 8 月 2 日（金）～ 令和 6(2024)年 9 月 15 日（日）
調査実施機関	株式会社 進研アド	

※重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した者は集計から除外している。各調査回答者の重複はない。

本調査は、調査票【資料 8】と併せて、リーフレット【資料 9】（本学科の設置の理念、設

置場所及びアクセス、学生納付金等の情報を具体的に示したものを配布し、実施した。有効回収数（14,009人）のうち、以下の①～③の条件すべてに合致する回答者（1,572人）を本学科のターゲット層と定義し、分析を行った。

- ①【Q1】卒業後の進路として「大学」を希望
- ②【Q2】志望する大学等の区分（設置者）として「私立」を希望
- ③【Q3】高校卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野として、「物質化学科」の学びと関連する以下の学問分野を選択
化学、応用化学、環境工学、エネルギー工学のいずれかに興味がある。

ターゲット層の受験意向及び入学意向をクロス集計した結果は、以下のとおりである。本学科を「第一志望で受験する」と回答した者のうち、合格した場合「入学する」と回答した者（以下「第一志望者」という。）は102人であり、入学定員を上回る件数であった。

上段：％ 下段：件数（人）		入学意向※2		
		入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
受験意向 ※1	第一志望	6.5 102	1.7 26	0.1 2
	第二志望	0.4 6	6.9 109	0.8 12
	第三志望以降	0.3 4	17.0 267	3.3 52
	受験意向あり・合計	7.1 112	25.6 402	4.2 66
受験しない		59.1 929		

※1：受験意向に関する設問

【Q5】あなたは、甲南大学 理工学部「物質化学科」（仮称、設置構想中）が開設された場合、受験を希望しますか。

※2：入学意向に関する設問

【Q6】Q5で①～③（受験する）を選択した方に質問です。甲南大学 理工学部「物質化学科」（仮称、設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

また、本学科におけるさまざまな特色に関し、どの程度魅力を感じるか調査した。本学科のターゲット層及び第一志望者が「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」

と回答した件数は以下のとおりであり、第一志望者は約 90%以上、ターゲット層では 80%以上の者が各特色に魅力を感じていることが分かった。

上段：％ 下段：件数（人）	標本数	魅力を感じると回答した割合・件数		
		特色 A	特色 F	特色 G
ターゲット層	1,572	85.7 1,347	82.8 1,302	83.3 1,310
第一志望者	102	92.1 94	94.1 96	93.1 95

※【Q4】甲南大学 理工学部「物質化学科」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。

- ・特色 A 神戸都市部の総合大学で、少人数教育による手厚い指導が受けられる。
- ・特色 F 将来、物質と化学の関わる幅広い仕事に就くために必要な化学と応用化学の知識・実験技術を習得できる。
- ・特色 G 生活や社会を豊かにする次世代新素材や先端科学技術の研究を通じて科学の課題解決能力と実践力を習得できる。

以上の調査結果のとおり、入学定員を上回る第一志望者の回答を得られていることから、定員充足することが予測される。また、本学科の特色に魅力を感じているターゲット層が多くいることから、広報活動等を強化し、より多くの進学希望者の確保につなげていくことで、安定した定員充足が見込まれる。

④人材需要に関するアンケート調査等

本学科の設置構想に関して、企業からの採用ニーズを把握するため、採用意向調査「甲南大学 理工学部 物質化学科（仮称、設置構想中）に関するアンケート」を行った【資料 10】調査概要は、以下のとおりである。

調査対象	企業の採用担当者
調査エリア	北海道、山形県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、和歌山県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、岡山県、広島県、鳥取県、山口県、香川県、徳島県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、宮崎県
調査方法	郵送調査
調査対象数	依頼数：1,189 社 回収数（回収率）：293 社（24.6%）

調査時期	令和 6(2024)年 9 月 9 日 (月) ～令和 6(2024)年 10 月 11 日 (金)
調査機関	株式会社 進研アド

本調査は、調査票【資料 11】と併せて、リーフレット【資料 9】(本学部の設置の理念、設置場所及びアクセス、学生納付金等の情報を具体的に示したものを)を配布し、実施した。293 社の回答を得たアンケートにおいて、採用したい学問分野を複数回答で調査したところ、本学科の学びと関連する「化学」が 33.4%、「応用化学」は 30.0%であった。このことから、本学科での学びの分野は、企業の採用ニーズに一致していることが分かる。

同調査において本学科の主な学びの特色※について、企業にとって魅力的であるか調査したところ、特色 A 及び特色 G にて、およそ 90%以上の企業等から「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」という回答を得た。この 2 項目の特色は、業種を問わず企業が求める人材育成に必要な学びの特色であることを示したものであり、このような観点からも企業等の望む人材と本学科の特色及び人材育成が合致していると言える。また、特色 G においても約 80%の企業から「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」という回答を得ており、物質化学系の専門知識・技術をもつ人材が分野を問わず求められているものと考えられる。さらに、本学科の主な卒業後の進路として想定している、製造業の企業においても、ほぼ全ての企業等から高い割合で各特色に魅力を感じていると回答があり、企業等の望む人材と合致していることが予測される。

上段：％ 下段：件数 (人)	標本数	魅力を感じると回答した割合・件数		
		特色 A	特色 F	特色 G
全体	293	98.0 287	79.5 233	89.1 261
製造業	153	98.0 150	88.2 135	94.1 144

※特色 A 「なぜ？」と感じた物事を分析・考察し、結論を導き出すという科学する力を育てる。

特色 F 将来、物質と化学の関わる幅広い仕事に就くために必要な化学と応用化学の知識・実験技術を習得できる。

特色 G 新たな機能材料を開発し、またその構造や機能を評価する研究を通じて、課題解決能力と実践力を身につけることができる。

本学科の設置が社会にとって「必要だと思う」と回答した企業は 97.6% (286 社) に上り、多くの企業からの支持を受けている。また、本学科の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は 83.6% (245 社) であり、毎年何人程度の採用を想定しているか伺ったところ、以下のとおり、採用想定人数の合計は 388 人で、本学部の入学定員を大きく上回った。こ

これらの結果により、安定した人材需要があることが見込まれる。

業種	回答企業（社）	採用想定人数（人）
製造業	128	194
電気・ガス・熱供給・水道業	3	4
情報通信業	34	47
建設業	16	29
卸売・小売業	44	55
医療・福祉	1	1
複合サービス事業	2	4
サービス業	11	36
その他	6	18
合計	245	388

（４）新設組織の定員設定の理由

日本全体の中長期的な 18 歳人口は減少傾向にあるものの、【表 2】のとおり国内の「化学」及び「応用化学」関係学科における直近 3 年の志願者数は一定水準で推移しており、安定した入学定員充足率で推移している。近隣の私立大においても、競合大学 3 校と本学既設の理工学部機能分子化学科の定員充足率から、高いニーズを有していることが分かる。

学生確保に向けた具体的な取組については、既設の理工学部機能分子化学科においてオープンキャンパス、大学案内の発送、ガイダンス及び高校訪問等を通し、多くの受験生と接触することで受験率及び入学率に良い影響を与えている。本学科における学生募集のための PR 活動についても、既設学科と同様の取組を実施した場合、令和 8(2026)年度も同程度以上の受験者及び入学者が想定され、本学科で設定した 45 人の定員を十分確保できる見込みである。

また、高校生からの進学ニーズを把握するために行った学生確保に関するアンケート調査の結果においても、「第一志望で受験をする」かつ「入学する」と回答した高校生は 102 人おり、入学定員を上回る回答を得られたことから、問題なく定員充足することが予測できる。さらに、企業からの採用ニーズを把握するために実施したアンケート調査でも、本学科の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は 245 社であり、採用想定人数の合計は 388 人と入学定員を大きく上回った。これらの結果により、安定した人材需要があることが見込まれる。

以上の理由から、本学科入学生を安定的に確保することは十分に可能であり、企業における人材需要もあることから、入学定員 45 人は合理的であると考えられる。